

今回は、1月17日(金)の親子防災訓練、第4回 小野市学校安全実践報告会(学校安全授業、ヒヤリハットの共有)について報告いたします。

<親子防災訓練>

1. 親子地震避難訓練 1月17日(金) 2時間目～4時間目

○事前学習

- ・地震が起きたらどうなる。
- ・地震が起きたらどうする。
- ・ダンゴムシポーズ。
- ・避難の仕方について。



○避難訓練

日時:休み時間

**想定:震度6の地震
火災現場あり
行方不明者あり**



児童生徒は速やかにダンゴムシポーズを行い、バギーの児童生徒は、常備しているヘルメットを、すぐにかぶるなど、頭を守る動きを支援者と共にに行いました。

保護者と共に、初期対応と避難経路確認を行い速やかに安全に避難出来ました。

保護者の方は、一緒に避難しながら子どもの様子を客観的にみることで、避難時の課題や今後の方向性について一緒に考えることができました。

同時に、教職員は、本部、GOGO班、レスキュー班、避難誘導、救出、救急、搬出・連絡の役割に分かれて組織的に対応しました。自分の役割に基づき、速やかに初期の火災対応や残留児童生徒の確認、捜索ができました。また、状況確認において、トランシーバーを効果的に活用することができました。

2. 親子防災スタンプラリー ☆4つの防災ワークショップを親子で体験☆



避難所設営、避難体験



給水リレー体験、
アルファ化米試食



防災グッズ
毛布担架づくり



けむり体験

親子で協力して段ボールベッドの作成、給水リレー、毛布担架づくりを行い、自分の子どもや家族、地域の人で、どのくらいのことができるか、けむり体験での自分や子どもの様子からどう落ち着いて行動できるか等、イメージしながら体験することができました。また、体験での子どもの様子から、被災時に必要な備えについて保護者と一緒に考えるきっかけになりました。

<第4回 小野市学校安全実践報告会>

日時：1月17日(金) 13:00～16:30 於：小野特別支援学校

(1) 授業公開の単元名と内容 小野特別支援学校 災害安全 ※指導案作成

	単元名	内容
雪組	見て、聞いて、考えてやってみよう	災害、交通ルール
月組	これ食べられるかな？～非常食にチャレンジ～	非常時の食生活
星組	防災カルタをしよう	阪神淡路大震災、防災カルタ
宙組	備えよう！～もしもの時に、安心～	防災バック
中1組	心肺蘇生法について	緊急時にできること、胸骨圧迫やAEDの使用
中2組	安全に生活するために ～危険なところには近づかないようにしよう～	危険な場所、防犯意識
中3組	防災グッズを作ろう	災害時の避難所生活



- (2) 実践発表 ①小野特別支援学校 学校安全の取り組み
②市内小・中・特学校 ヒヤリハット事例について
(3) 指導助言 兵庫県教育委員会 体育保健課 主任指導主事 新井誠司 様
(4) 講演会 「安心安全な学校づくり」

～学校事故対応に関する指針【改定版】について～

講師 大阪教育大学教授 学校安全推進センター長 藤田大輔 氏

授業を参観された感想

- ・1.17を風化させないよう、地震に関する学習を積み重ねるのは大切だと思った。
- ・身近なスーパー等で手に入る段ボールで、中学部生徒が寝ころんでも十分な強度の段ボールベッドを完成させていた。生徒達も達成感が得られていた。チーム協力型の学習に取り組みたいと思った。
- ・「もしも」の時、非常食が食べられるかは、とても重要だと思った。偏食のある児童でも、避難生活を送ることができる必要があることを学んだ。また、防災バック、心肺蘇生等、実物を用いたり、実技を行ったりする学習は、児童生徒に分かりやすく、意欲的に取り組みやすいと感じた。

実践発表の感想

- ・小野特別支援学校の児童生徒による安全点検を、本校でもできればと思う。
- ・ヒヤリハット事例を共有することで、地震の危機管理に対するアンテナが高くなった。事例が「あまりない」という返答もあったが、それは、一人ひとりの意識次第だと感じた。事例を挙げることが目的になってしまっては本末転倒だが、些細なことでも「もしかしたら大事になるかもしれない」という考えをもって生活を送っていくことで、生徒たちが安全な学校生活を送ることに繋がると思った。

<ヒヤリハット事例集の作成>

小野市小学校、中学校、特別支援学校で90事例（重複内容は整理）。

教室や体育館など場所と、登下校や部活動、校外学習など場面で整理。

ヒヤリハット事例を作成して

※本校職員アンケートより

- ・様々な事例を知り、他人事ではなく、ワガ事として考え、子どもと関わる際にリスクを予期した指導支援を行うようになった。
- ・この場面では、何に気をつけなければいけないか事前に認識するようになった。
- ・これまで自然と行ってきた、安全に関する支援を可視化し共有することで、安全に関する全体の理解が深まった。
- ・知らない人が校内にいると、名札をしているか確認するようになった。

安全意識の向上 訓練の計画・実施を重ねる中で、学校や保護者、地域や関係機関みんなで、責任もって子どもの命を守ることの大切さを改めて感じた。

